

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 街路部：②-3 1-173号線

評価Ⅱ

樹種：サクラ
 幹枝：衰退、樹冠＞間隔
 根元：根元径/植樹幅＞0.5



【評価Ⅱ】

今後、大径化が一層進み、
維持が困難になる可能性大



ステップ3：柵いっぱい
の幹かつ
劣勢木の間引き



ステップ4：更新



タイプ区分：②-3 1-173号線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木 列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
18	18	○	○		○	△	○							

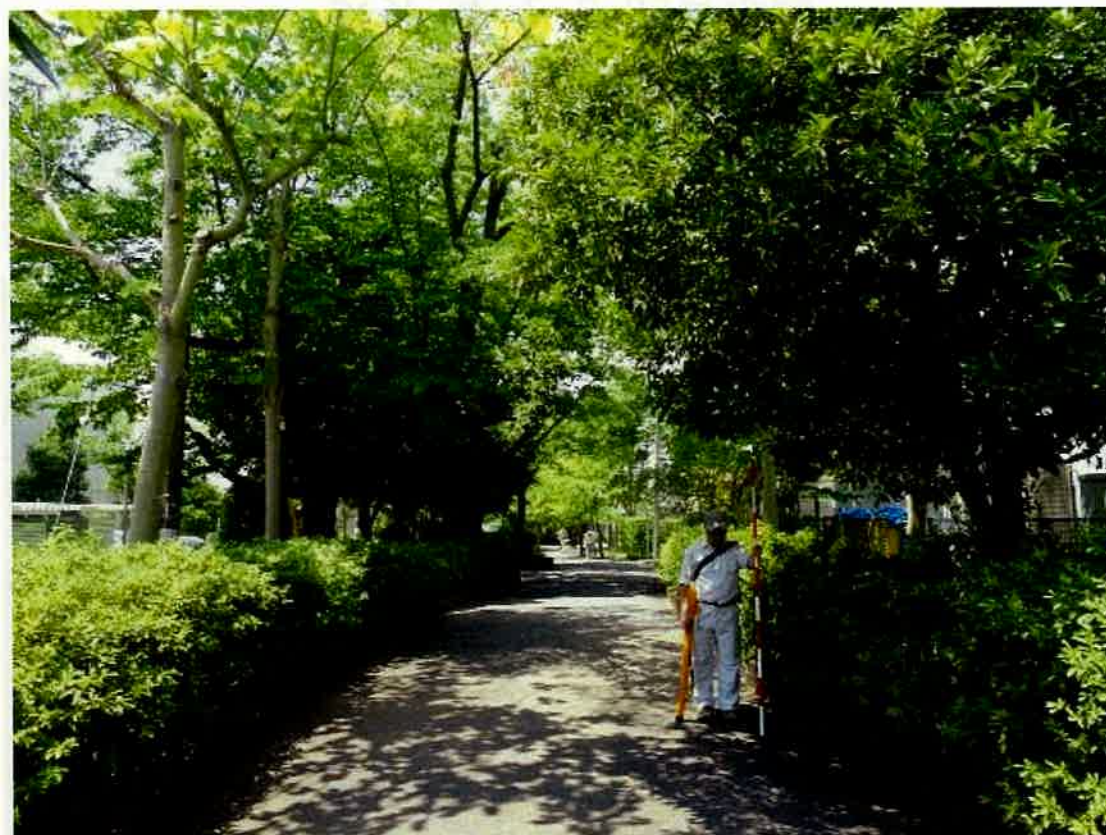
赤字：危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 ペデ部：④-1 4-11号歩線

評価Ⅱ

樹種：シラカシ・マテバシイ
 幹枝：枯れやキノコなど衰退
 樹冠＞間隔
 根元：低木が高く、密生
 樹種：常緑樹が多く暗い



【評価Ⅱ】

植栽が多く、
 管理コスト増大の可能性大

ステップ²：常緑樹の間引き・撤去、
 生垣の撤去

ステップ³：単独樹の撤去・更新、
 植栽木の整理

タイプ区分：④-1 4-11号歩線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木 列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
34	246	○	○		○				○	○○	△		2	

赤字：危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 ペデ部：④-2 5-39号歩線

評価Ⅱ

樹種：シラカシ

幹枝：衰退 樹冠>間隔

根元：根上りにより舗装浮上

空間：中央部に植栽があり歩道狭い

樹種：常緑樹



【評価Ⅱ】

植栽が多く、
管理コスト増大の可能性大

ステップ2：常緑樹の撤去・間引き、
中央の植樹帯の整理

ステップ3：学校付近を中心とした
植栽配置の見直し

区分：④-2 5-39号歩線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木 列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
62	79	○	○		○				○	○○	△		1	

赤字：危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 ペデ部：④-4 2-3号歩線

評価Ⅱ

樹種：ニセアカシア
 幹枝：樹冠 > 間隔
 根元：低木が隣接部と重複する

【評価Ⅱ】

植栽が多く、
 管理コスト増大の可能性大

ステップ2：樹木と隣接する箇所の
 重複整理



タイプ区分：④-4 2-3号歩線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠広	d越境	e根元径	f根上り	g樹種	h低木列	i低木高	j歩道狭	アドプト団体数	初版重点管理路線
12	12	○			○				△	○	△			

赤字：危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間 ペデ部:④-2 6-11号歩線

評価Ⅲ

樹種: シラカシ・エンジュ
 幹枝: 一部で樹冠が重複
 根元: 歩道狭く、雑草が狭い印象を強めている)
 空間: 中央植栽が歩道狭く見せる



【評価Ⅲ】
 管理次第でさらによくなる

ステップ2: 中央の植樹帯の整理

区分:④-2 6-11号歩線

通学路	初版重点管理路線	a衰退	b被圧	c樹冠広	d越境	e根元径	f根上り	g樹種	h低木列	i低木高	j歩道狭
○				○					○○	△	

赤字: 危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間: 街路部 ①-2 5-2号幹線 評価II

樹種: モミジバフウ
 幹枝: 衰退、樹冠 > 間隔
 管理限界の樹高(H=11.7m)
 根元: 根上りにより舗装浮上

※市民の関心が高い区間



【評価II】
 今後、大径化が一層進み、
 維持が困難になる可能性大c

ステップ1: 下枝剪定
 ステップ3: 樹高抑制、植栽空間
 の確保、間引き
 ステップ4: 更新

タイプ区分: ①-2 5-2号幹線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
345	345	○	○		○		○			○○		△	-	⑥上之根大 通り

赤字: 危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間：街路部 ①-2 6-1号幹線

評価Ⅱ

樹種：メタセコイア
 幹枝：樹冠＞間隔、
 管理限界の樹高(H=18.0m)

※市民の関心が高い区間

【評価Ⅱ】

今後、大径化が一層進み、
 維持が困難になる可能性大

ステップ1：隣接木との競合がない
 よう剪定

ステップ3：間引き、樹高抑制

ステップ4：更新



タイプ区分：①-2 6-1号幹線

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠 広	d越境	e根元 径	f根上り	g樹種	h低木 列	i低木高	j歩道狭	アドプト 団体数	初版重点 管理路線
114	114	○			○								1件	⑧メタセコイ ア通り

赤字：危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

改善モデル区間: 街路部 ③ 乞田川沿いサクラ 評価Ⅱ

樹種: ソメイヨシノ
 幹枝: 樹冠 > 間隔
 根元: 根上りにより舗装浮上

※市民の関心が高い区間



【評価Ⅱ】
 今後、大径化が一層進み、
 維持が困難になる可能性大

ステップ1: 街路樹診断の要観察
 木の経過観察、剪定
 ステップ3: 間引き、
 植栽空間整備
 ステップ4: 更新

タイプ区分: ③ 乞田川沿い

本数	全体数	通学路	a衰退	b被圧	c樹冠広	d越境	e根元径	f根上り	g樹種	h低木列	i低木高	j歩道狭	アドプト団体数	初版重点管理路線
544	553		○		○		○	○	△	○			-	③ 乞田川沿いサクラ

赤字: 危険木化の指標となる項目

3. 方針を実施させるための取り組み

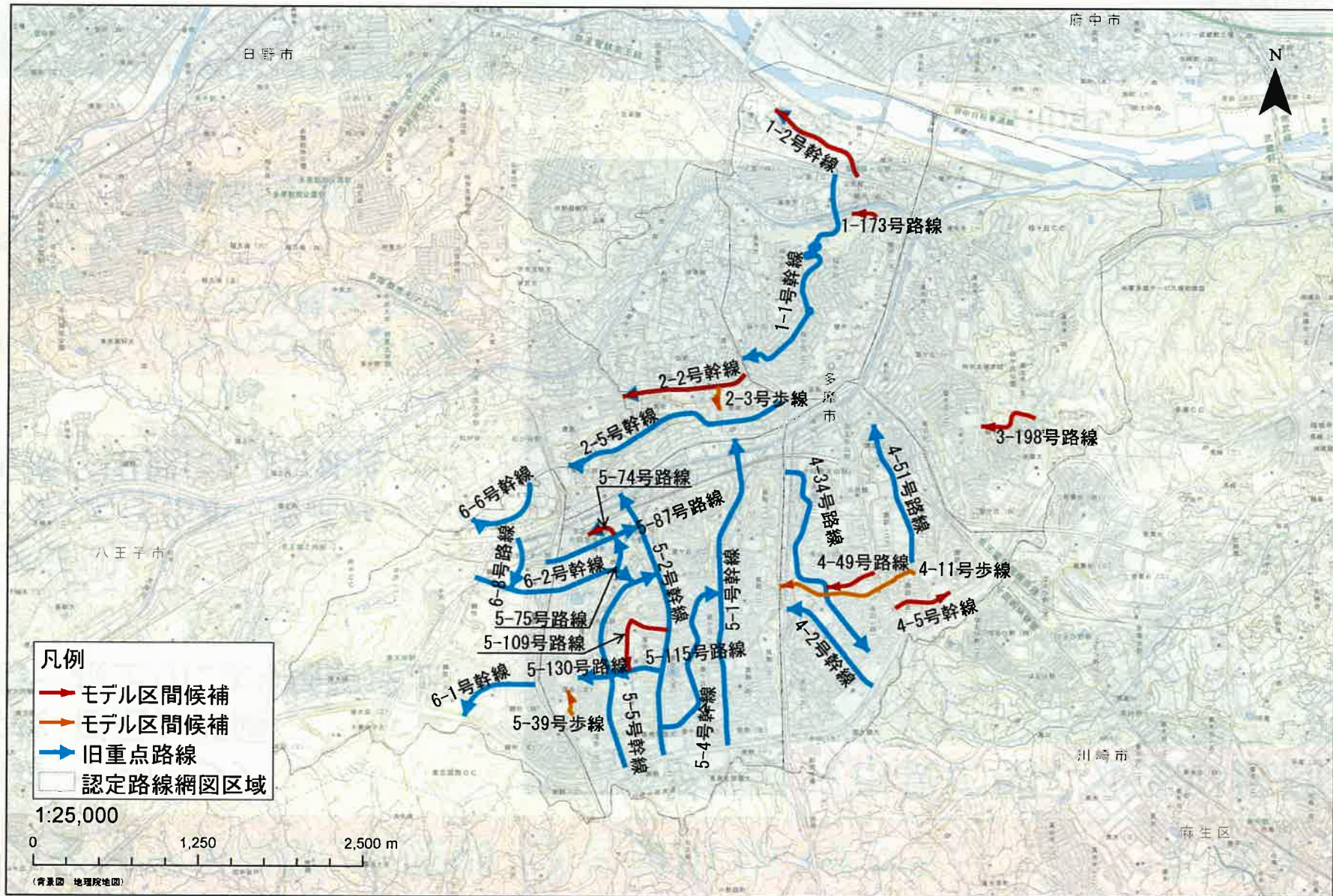


図 改善モデル区間の位置

3. 方針を実施させるための取り組み

改善内容の例：危険木の撤去・低木の撤去

区分：②-1団地(高層)

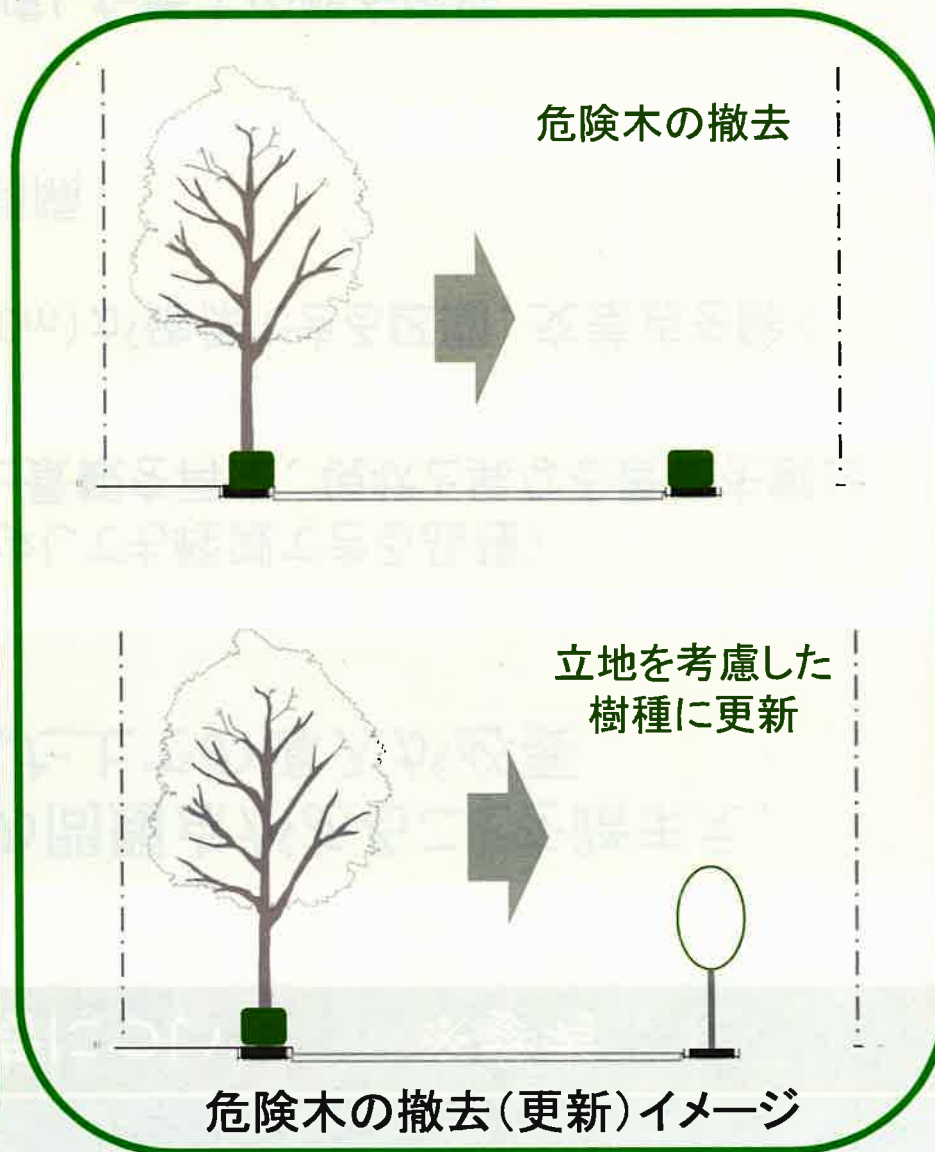
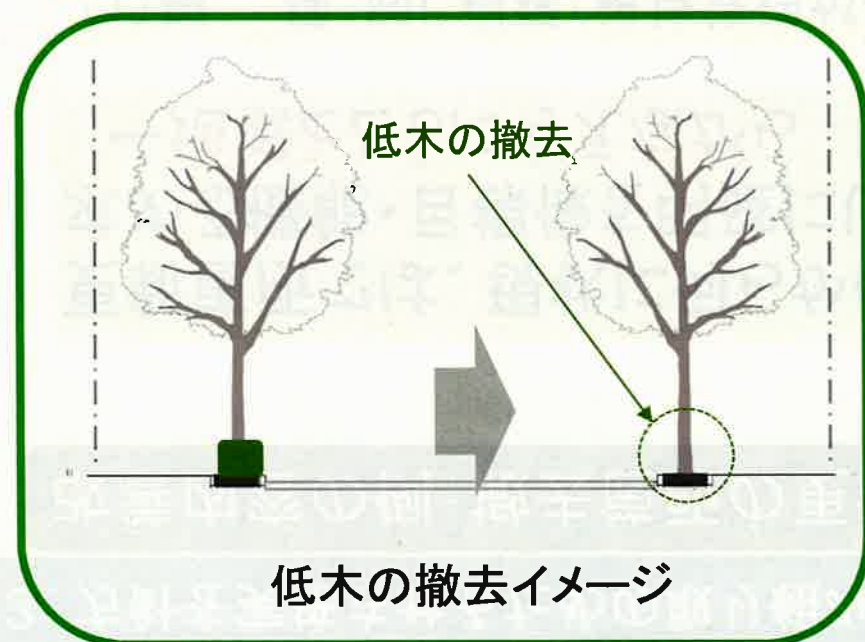
樹種：エンジュ

幹枝：枯れやキノコなど衰退

樹冠>間隔

根元：歩道狭い、寄植が狭い

印象を強めている



3. 方針を実施させるための取り組み

改善内容の例：撤去箇所の更新について ※参考

更新箇所では、現状に何らかの問題点があることを踏まえ、求める機能・目標像を明確にした上での導入が必要

←地域とともに考えながら

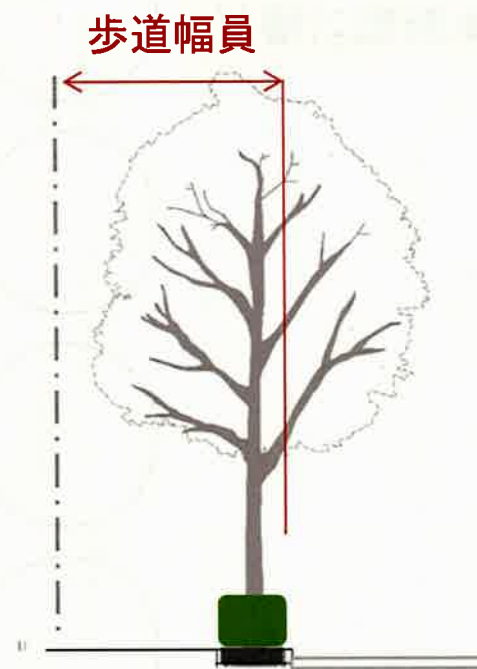
- (1) 樹種：同じ樹種（維持管理が少しでも軽減できる品種）
異なる樹種：現状と似た景観を再生、現状と異なる景観を創出
- (2) 配置：歩道の有効幅員（ $W=2.0\text{m}$ ）が確保できる区間、交差点を除く
片側・両側
間隔を空ける・通常の間隔
- (3) 植栽空間：植樹帯・単独樹
歩道の有効幅員を考慮した最大の幅を確保

3. 方針を実施させるための取り組み

植栽樹種の改善の考え方

【例：狭い歩道幅員(W3.25m以下)に適用できる樹種 ※参考】

常緑広葉樹	落葉広葉樹
<ul style="list-style-type: none">・クロガネモチ・ホルトノキ・モッコク	<ul style="list-style-type: none">・イロハモミジ・ザイフリボク・サクラ「天の川」・サルスベリ・シデコブシ・ナツツバキ・ハクウンボク・ハナミズキ・ヒメシャラ・ヤマボウシ

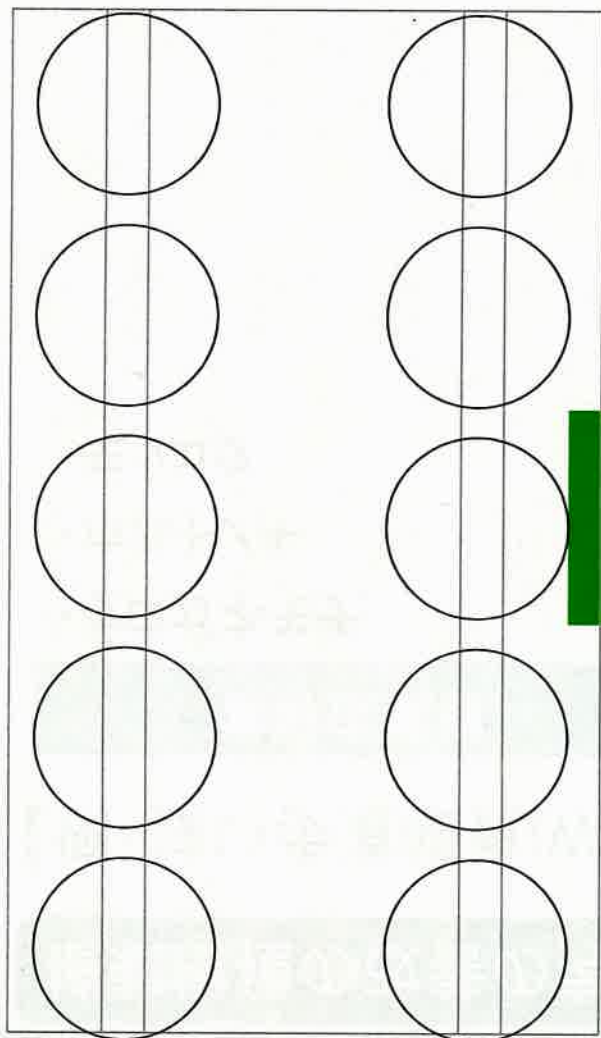


出典：東京都「平成26年度大径木再生指針」資料編p4 樹種剪定樹木リスト

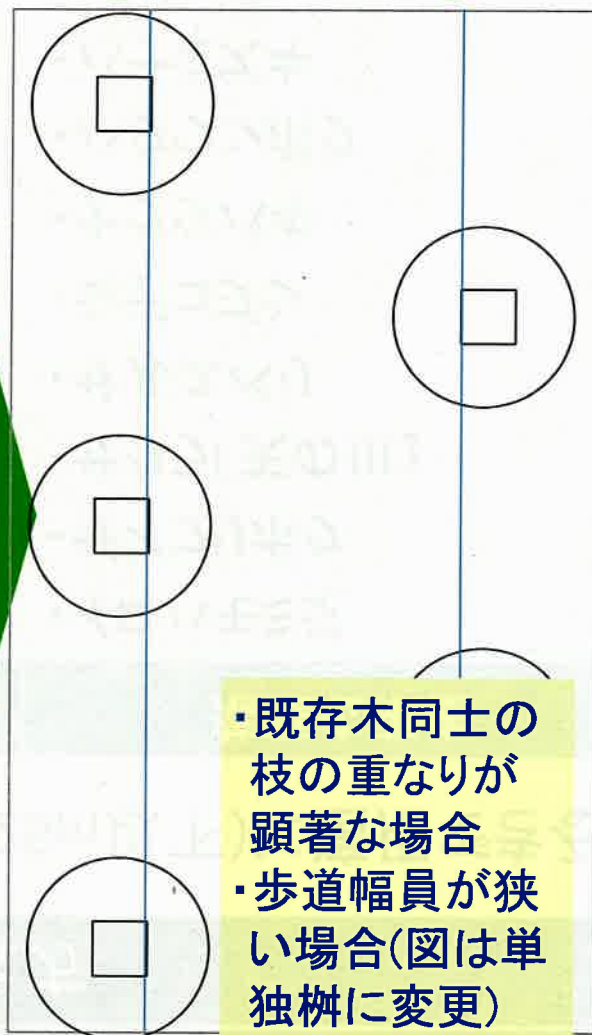
3. 方針を実施させるための取り組み

植栽配置の改善の考え方

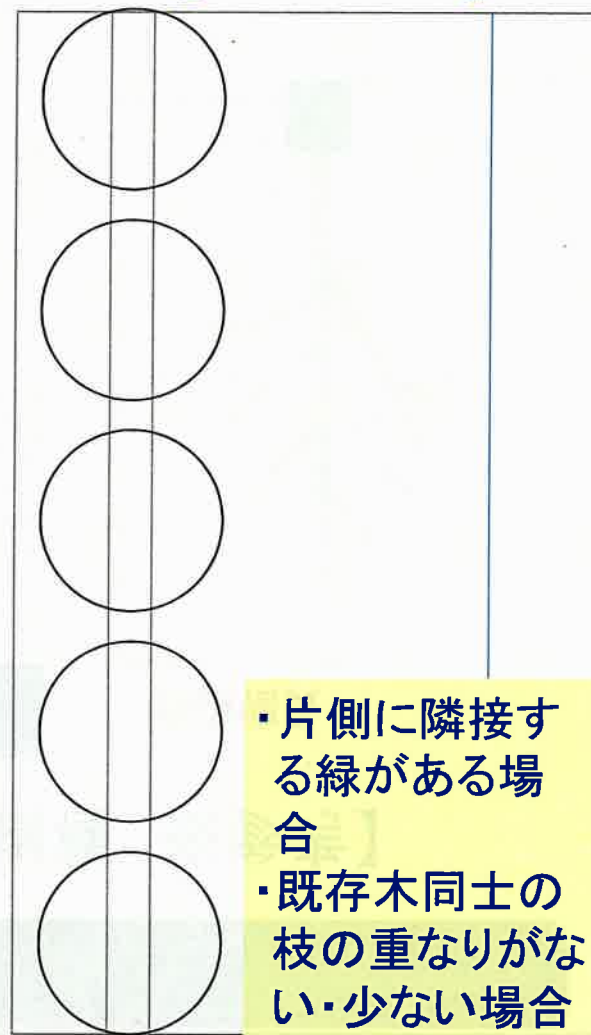
【現 状】



【千鳥状に残す】



【片側を残す】



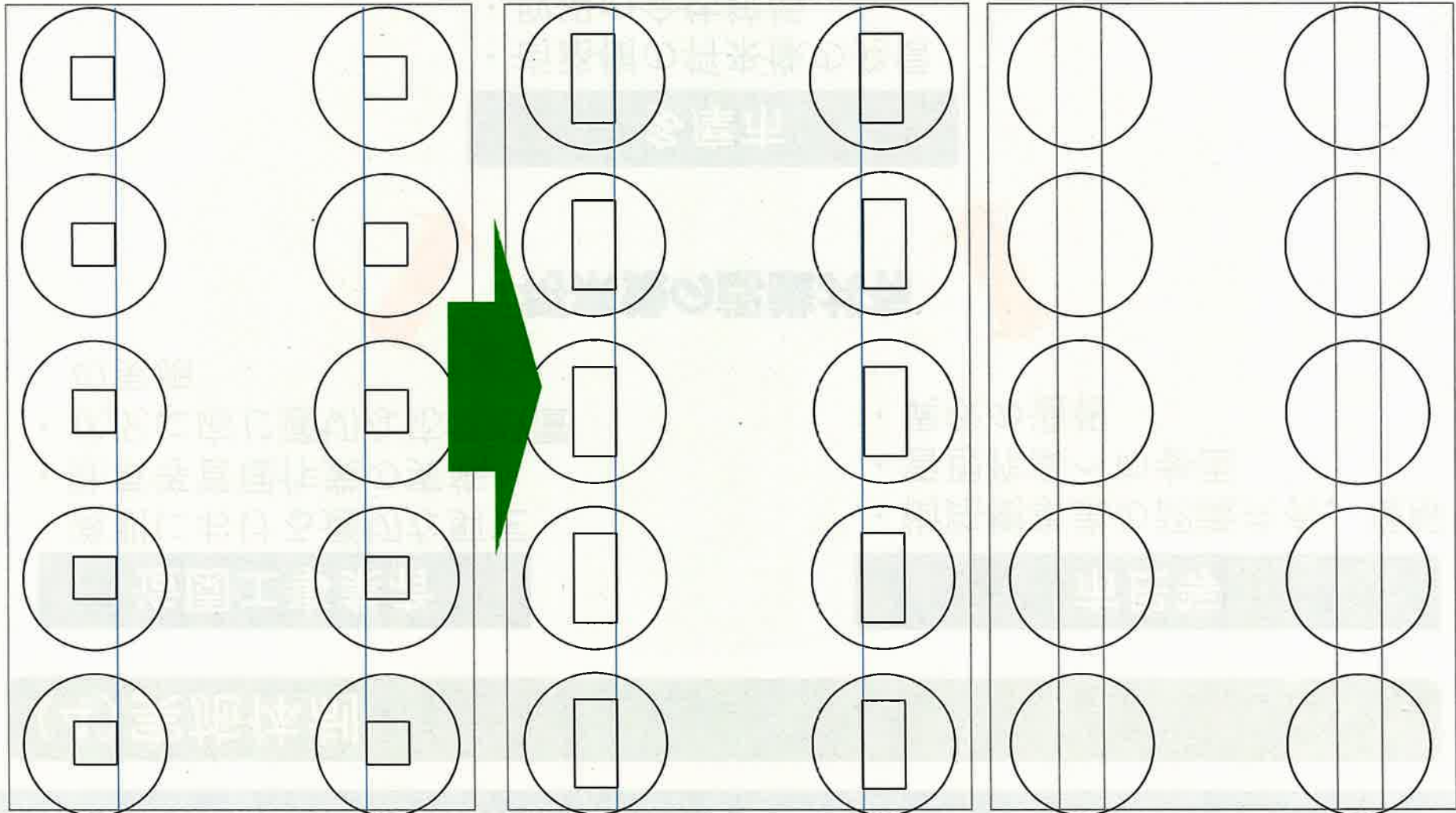
3. 方針を実施させるための取り組み

高木植栽空間の改善の考え方

【現 状】

【空間を広げる】

【単独樹を連続させる】



3. 方針を実施させるための取り組み

(4) 実施体制

造園工事業者

- ・ 適期における適切な剪定
- ・ 除草等管理作業の実施
- ・ 状況に応じ適切な応急処置の実施

市民等

- ・ 街路樹事業の認識共有、理解
- ・ 管理作業への参画
- ・ 異状の通報

将来像の認識共有

多摩市

- ・ 街路樹の将来像の発信
- ・ 取組の全体統括
- ・ 剪定を含む街路樹等維持管理業務の発注・監理
- ・ 市民との合意形成
- ・ 協働の働きかけ

4. 方針を実現させるためのプログラム

(1) 取り組みの枠組み

- 【1】新たな取り組みの試行
(①2019～2021年度、②2022年度以降)
- ・改善モデル区間の試行
 - ・市民連携の試行

ステップ
2以降

- 【2】試行を踏まえた展開
(③2022～2028年度)
- ・改善モデル区間の試行を踏まえた展開
 - ・市民連携の試行を踏まえた展開

通行に支障となる問題には迅速に対応
(これまで通り)

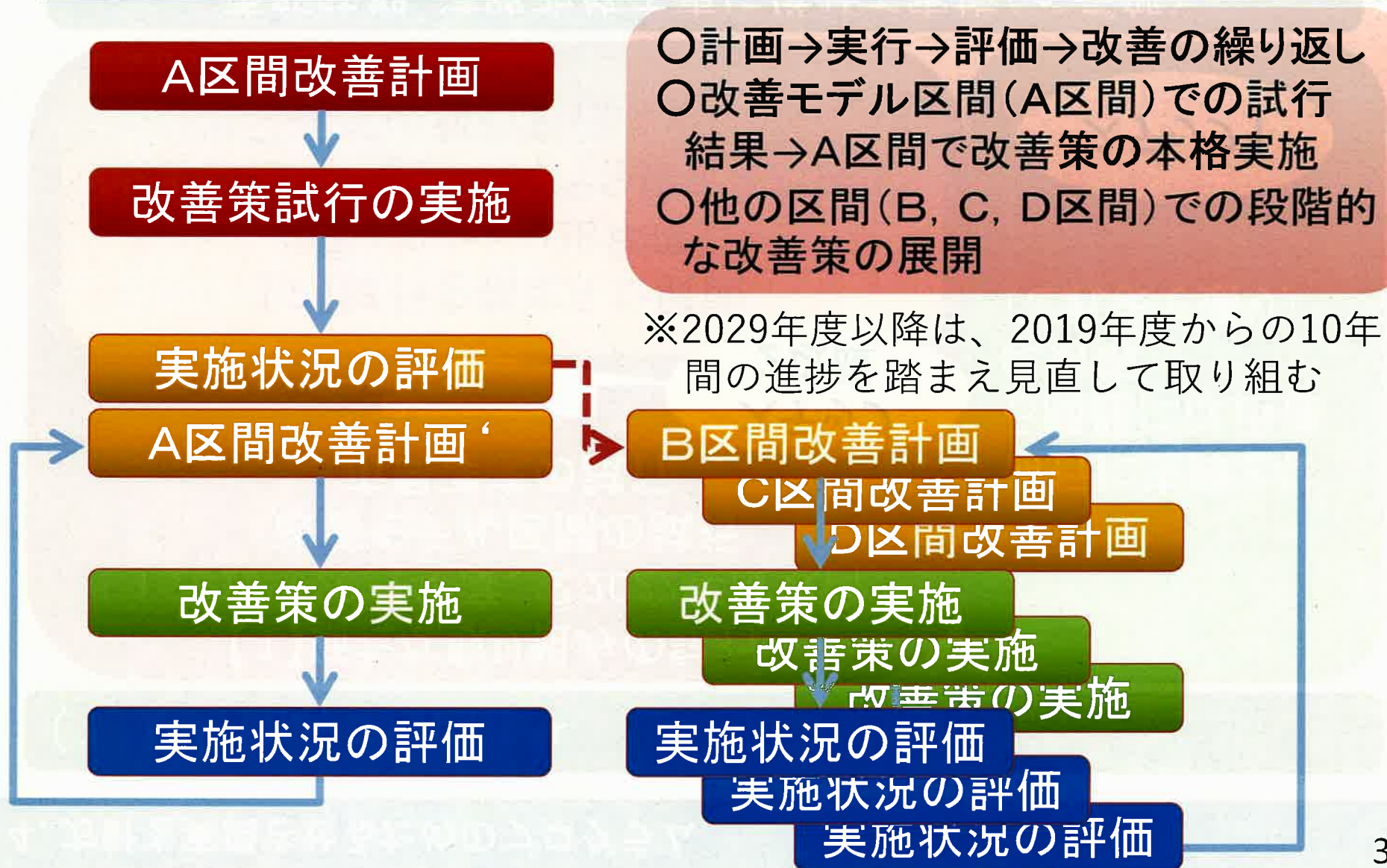
ステップ1

更新時期：道路改修工事に併せて実施(ペデ部)
条件が整い次第実施(街路部)

※2029年度以降は、2019年度からの10年間の進捗を踏まえ見直して取り組む

4. 方針を実現させるためのプログラム

(2) 取り組み実施のプロセスの考え方



5. 検討委員会の進め方・スケジュール

(1) 委員会の進め方・スケジュール

スケジュール(案)

平成30年1月12日時点

年月	主な内容	段階	市民参画・周知活動	
平成29年度	8月	第一回改定委員会 進め方の確認、課題の共有、アンケート	素案	
	9月		素案	
	10月	第二回改定委員会 目標、方針、課題について	素案	市民アンケート実施
	11月	第三回改定委員会 方針、取組み内容・改善モデル区間選定について	素案	
	12月		素案	市民ワークショップ(3回)
	1月	第四回改定委員会 取組み内容、改善モデル区間選定と路線別管理方針案、方針を実施するためのプログラム	素案	
	2月	第五回改定委員会 素案について	素案	
3月	(素案決定)	素案	素案に関するパブリックコメント実施	
平成30年度	4~6月	第六回改定委員会 パブリックコメント意見の反映についての議論 第七回改定委員会 原案作成に向けた確認作業	原案	素案説明会・市民ワークショップ
	7~9月	第八回改定委員会 原案について	原案	
	10~12月	第九回改定委員会 最終確認	改定版 改定版	原案パブリックコメント・原案説明会
	1月	決定	広報・周知	広報・ホームページ

5. 検討委員会の進め方・スケジュール

(2) 素案とりまとめについて

初版(H20.9)	改定版(素案)	改定委員会
第1章 計画策定の目標と背景	第1章 改定の背景と目的	
1. 目的と背景	1.1.改定の背景と趣旨	
2. 計画体系の位置付け	1.2.よくなるプランの位置づけ	
-	1.3.現行の「よくなるプラン」が有する問題	1回委員会
-	1.4.改定にあたっての基本的な考え方	
-	1.5.改定作業で検討する主な課題	
3. 計画の対象範囲と期間	1.6.計画の対象範囲と期間	
第2章 街路樹の現状	第2章 街路樹の実態と課題	2回委員会
1. 街路樹数、2. 街路樹の推移	2.1.街路樹の現状	
3. 街路樹の現状(他市との比較)	(削除)	削除
4. 街路樹管理の状況	2.2.街路樹の維持管理の現状	2回委員会
-	2.3.多摩市の現況と今後の姿	
5. 街路樹の課題整理	2.4.課題から導き出される方向性	3回委員会
第3章 計画の基本方針・維持管理方針	第3章 街路樹の目標像及び方針	
-	3.1.テーマ・目標像	
1. 計画の基本方針、 2. 街路樹の管理方針	3.2.実施方針	2回委員会
-	3.3.短期的・長期的なビジョン	3回委員会

5. 検討委員会の進め方・スケジュール

(2) 素案とりまとめについて

初版(H20.9)	改定版(素案)	改定委員会
第4章 「街路樹よくなるプラン」の具体的 実施方針	第4章 方針を実現させるための取り組み	3回委員会
1. 目的	4.1.課題対応の基本的な考え方	
3. 改善箇所と実施方法	4.2.課題別の取り組み	
2. 路線の選定	4.3.改善モデル路線の選定及び改善例	
4. 現状本数と今後の間伐本数予測 -	(削除)	削除
-	4.4.実施体制	※ 4回委員会
6. 美しい街路樹作りに向けた管理 -	第5章 方針の実現に向けての進め方	
	5.1.施策の枠組み	
	5.2.実施の流れと進捗管理	※ 5回委員会
5. 管理費未来予測	5.3.10ヵ年工程表	
資料編	資料編	-
別図 重点管理路線案内図	(削除)	(削除)

※:2018年度に、より具体の検討を行う項目

